

28年12月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成28年12月1日～ 28年12月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		28/12月	29/1月	29/2月
伐採動向	スギ	33.3	16.7	25.0
	ヒノキ	12.5	△ 12.5	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	16.7	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	25.0	25.0	33.3
	ヒノキ	0.0	0.0	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
手持立木在庫動向	スギ	41.7	25.0	16.7
	ヒノキ	12.5	12.5	12.5
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	33.3	0.0	0.0

・スギ原木の伐採は3ヵ月連続して増加。ヒノキは12月の増加が、1月は減少し、2月は増加。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。エゾ・トドは12月の増加が1月、2月は横ばい。

・スギ原木の出荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキは12月、1月の横ばいが、2月は増加。カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ及びヒノキの立木手持ち在庫は3ヵ月連続して増加。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。エゾ・トドは12月の増加が1月、2月は横ばい。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林の素材生産請負でトドマツ間伐を実行中。降雪が少なく順調に作業は進む見込み(北海道)。
- ・国有林の間伐生産請負を実行中(北海道)。
- ・間伐80%、主伐20%(東北)。
- ・天候が定まれば、間伐、主伐等が増加する(関東)。
- ・積雪等が予想され間伐の作業効率が低下(中国)。

(出材・販売動向)

- ・出材も順調。素材の流通材が余り製材工場に入っていないので、素材の委託販売の結果も良い(北海道)。
- ・出材調整なし(北海道)。
- ・調整なし(東北)。
- ・天候が定まれば、間伐、主伐等が増加する(関東)。

(手持ち立木在庫)

- ・1月から手持ち立木の現場に入るの、その頃から立木在庫が減少する(北海道)。
- ・国有林の素材生産請負が終了後、立木販売物件の伐採を予定(北海道)。
- ・民有林の間伐等の購入でやや増加(関東)。